

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

平成31年2月18日

多摩市議会議員 向井 かおり

多摩市議会議長 岩永 ひさか 殿

## 質問項目

1 多摩市のエネルギー政策について

～環境部復活は何だったのか～

2 公園ではたらこう！

～みどりのルネサンスについて

## 答弁者

市長・教育長等

受付	平成31年2月18日	No.20
	午後0時00分	

## 項目別質問内容

<p>1. 多摩市のエネルギー政策について～環境部復活は何だったのか～</p>
<p>東日本大震災から8年が過ぎようとしています。今年も3月11日には、たくさんの人々があの日を思い出し、今なお平和を取り戻せずにいる人に対して自分には何ができるのか、自問自答するでしょう。そして、原発事故による健康被害に怯えながら生きる大勢の人たちがいることを改めて胸に刻み、あの日を忘れないと自分に誓うでしょう。私もその一人です。</p>
<p>3.11を経験した私たちは、地方自治体にとってのエネルギー供給、消費について認識を新たにしました。</p>
<p>震災後の6月議会初日、市長は次のように述べています。</p>
<p>『原発震災』とも言うべき今回の事態は、放射線被曝への憂いだけではなく、放射性廃棄物処理の問題も含め、原子力は決して低コストではないことも浮き彫りとなりました。省エネルギー型社会を形成していくとともに、自然エネルギーの利用促進もより一層取り組んでいく必要があります。』</p>
<p>そしてその年、公約でもあった多摩市非核平和年宣言が市民とともに制定されたのです。「私たちは、人と人との絆を大切に、原子力に代わる、人と環境に優しいエネルギーを大事にしていきます。そして、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて、みんなが笑顔で、多様ないのちがにぎわうまちを、多摩市から実現していきます。」</p>
<p>あれから8年の間に、市長は環境部を復活させ、環境政策課や資源循環推進担当を設置し、施政方針の度に省エネルギー、自然エネルギーの推進が語られてきました。昨年末には、温暖化対策実行計画の見直しもあり、初めて外断熱やペアガラスはじめZEBという言葉も盛り込まれました。フクシマを経験した多摩市という一自治体が、核のない社会、エネルギーを大事にしていく社会の実現を目指し、強い意思をもって省エネルギーの旗を振るのだと理解し、賛同していました。</p>
<p>しかし、この3月補正予算では、中学校体育館への空調設備設置が盛り込まれました。猛暑が常態化する中、空調設備が他の公共施設に劣る学校施設に対し、議会も、その対策の必要性を認めてきました。中学校体育館は災害時の避難所ともなるからです。しかし今回の提案は、教育委員会が突然、代表者に専決処分を求めることから始まりました。子どもの命が最優先との考えには全く同感ですが、今年度の調査を経て全中学校の体育館へのクーラー設置となれば、これまでの市の省エネルギー、自然エネルギー推進の立場からの大きな方向転換です。</p>

## 項目別質問内容

<p>市長は今年度の施政方針の中で、「未来の子どもたちのためにも、SDGs（持続可能な開発目標）に対応し、地球環境への取り組みを積極的に進めていく所存です。」と述べています。市長の脱原発の姿勢、地球市民としての責任の果たし方をうかがいたいと思います。</p>
<p>(1) 都補助を活用しての空調設備設置の意思形成過程について、教育委員会内部、教育委員会と市長部局、庁内それぞれについて、検討の経緯をお示し下さい。</p>
<p>(2) 建替えを行った多摩第1小学校、多摩第2小学校、東寺方小学校では、省エネルギー、自然エネルギーが導入されてきました。これらの効果、評価について、教育委員会にうかがいます。また、多摩中学校、多摩第1小学校は、体育館とプールが合築となっていますが、他の体育館との室内温度の違いをお示し下さい。</p>
<p>(3) 多摩市全校がユネスコスクールとしてESDを推進してきましたが、SDGsの実現、とりわけ「持続可能な地球環境をつくる」ことについては、公共施設としての学校施設が果たせる役割があるはずですが、学校のエネルギー消費に対するこれまでの検証、評価、また今後の計画についてお知らせ下さい。</p>
<p>(4) 公共施設建設、大規模改修等に対し、環境部環境政策課長は、昨年度の予算の総括質疑の中で、「今後はしっかり提案していきたい」と答弁しています。これまで、グレード委員会とは性質の違う会議体を求めてきましたが、進捗状況をうかがいます。</p>
<p>2. 公園ではたらこう！～みどりのルネサンスについて～</p>
<p>2012年施政方針の中で市長は、みどりのルネサンスについて、「この取り組みの狙いは、単なる公園管理に留まらず、みどりを通じた市民同士の交流機会を拡大し、まちづくりに関わる意識を高めることで、地域課題を地域で話し合い、解決していく風土の醸成につなげて行く点にあります。そのために、公園・緑地施策だけではなく、教育、福祉の施策などとも連携した総合的な施策展開を図っていきたいと考えています。」と述べています。</p>
<p>みどりのルネサンスは、阿部市長らしい政策だったと評価しますが、新たなステージに進むには、愛護会、アダプト、グリーンボランティアなどを一度立ち止まって評価し、整理していくことは避けては通れないと思います。</p>
<p>公園愛護会の中の福祉団体は、長年「はたらく場」として公園を活用なさってきました。地域に見守られながら、障がい者理解を拡げ深め、市民が気持ちよく公園を利用できるよう維持・管理してきて下さった実績を、時代に合わせ</p>

## 項目別質問内容

た形で見直すべきではないでしょうか。改めて「はたらく場」として位置づけ、委託契約のもとで関わっていただくことが、優先調達の観点からも有意義だと考えます。

公園緑地課は、包括委託、指定管理などの検討を進めているかと思いますが、その前に、当該団体の皆さんと話し合い、道筋をつけておくことは市の責務だと思います。

市のお考えをうかがいます。

**資料要求欄**（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

平成31年2月17日

多摩市議会議員 増田 匠

多摩市議会議長 岩永 ひさか 殿

## 質問項目

- 1 地域の活性化について
- 2 多摩ニュータウンの再生について
- 3 安全・安心の街づくりについて
- 4 地域課題の解決について

## 答弁者

市長・教育長等

受付	平成31年2月17日	No.21
	午後6時43分	

## 項目別質問内容

<p>私は平成15年の市議会議員選挙で故土方久勝議員の想いを次いで、市議会議員に立候補し、初当選させて頂き、以来、4期16年にわたり、市議会議員として多摩市の為に市民の代表として、また、多摩に生まれ、育ち、生活し、多摩ニュータウンの開発前を知る数少ない議員として、多摩ニュータウン開発の未来を信じて協力してきた先人達の想いを大切にして、議員活動を続けてきました。私は議員活動では多摩市と地域を大切にし、地域のお祭りや諸行事に積極的に参加し、人と人との結びつきと絆を大切にして活動してまいりました。</p>
<p>今回、4期16年で市議会議員活動を節目とし、最後の一般質問とさせていただきます。</p>
<p>その中で、過去を思い返すと、初当選して、初めての市議会で、議会運営に疑問を感じ、1日で6人の無所属議員と協力して、議会の7人の最大会派を結成し、政党にしばられず、活動した事や地域のレジャー施設の撤退阻止の為に行動した事が議会で問題化され、指摘を受けた事等が思い出されます。</p>
<p>議会活動では、市議会副議長、決算特別委員長、総務常任委員長等の役職を務めさせて頂くとともに、数多くの被災地に義援金や救援物資をもって直接被災地に赴いた事や先進自治体への視察は大きな議員活動の中で私の財産となりました。</p>
<p>また、市議会ごとの一般質問では、安全・安心な街づくりと防災対策で市民への情報提供として重要な役割をする多摩テレビ、エフエム多摩の問題、消防団活動の充実支援、乞田川の環境整備、多摩ニュータウンの再生、尾根幹線道路の整備、高齢者の健康づくり、地域バス路線の復活、観光まちづくり、地域の活性化、コミュニティ館の管理運営、健幸まちづくり、郷土資料の管理やたばこ消費税の収入の件等様々な地域の課題について質問や指摘を行い、市や関係機関の協力のもとに課題解決に取り組んでまいりました。</p>
<p>多摩ニュータウン開発前を知る人も少なくなりましたが、開発以前は人口も少なく、当時の多摩村は田畑が広がるのどかな農村でした。緑と川に恵まれ、子供達の声が響いていました。開発当時は明るい未来と街づくりが声高々と叫ばれ、理想的な街が生まれると考え、数多くの人々が協力して、ニュータウン開発が始められました。多くの人々が全国から移り住み、ニュータウンが建設され、多摩市も大きく変わりました。</p>
<p>開発当初は少子高齢化の進行や施設の老朽化は話題にすらなっていませんでした。開発から約50年が経過し、市も大きく変わりました。多摩ニュータウンの再生が叫ばれる中で多くの課題も生じてきています。これからの多摩市、地域、人々の暮らしはどうなっていくのか感慨を新たにしています。</p>
<p>今回の市議会を終わると4月には市議会議員選挙も予定され、新たな議員による市議会となります。今後の新たな議員をはじめ、各議員の一層の活躍と市長をはじめ、市職員の奮闘を期待しております。</p>

## 項目別質問内容

<p>今回の過去16年間の総括を踏まえて、今後の街づくりや地域の課題について再度質問いたします。</p>
<p>1. 地域の活性化について</p> <p>(1)ハローキティの活用による地域活性化の市の評価と今後の方針について伺います。</p> <p>(2)観光振興についての市の基本的な考え方と観光協会の設立についての市の方針について伺います。</p>
<p>2. 多摩ニュータウンの再生について</p> <p>(1)今後の市としての具体的な取り組みについて伺います。</p> <p>(2)東京都施行の土地区画整理事業に伴う土地測量、測量決算書等の書類、愛宕多摩ニュータウン整備事業所の保管について伺います。</p>
<p>3. 安全・安心の街づくりについて</p> <p>(1)現在消防団の現状と評価と今後の消防団員確保対策について伺います。</p> <p>(2)防災訓練の現状と評価及び今後の防災訓練の具体的な内容について伺います。</p> <p>(3)災害時に防災用井戸の水質状況と災害用看板と公共施設の防災用トイレの対策について伺います。</p> <p>(4)災害時に液状化の場所の市民に周知と対策について伺います。</p>
<p>4. 地域課題の解決について</p> <p>(1)高齢化が進行していく中での地域交通対策について伺います。</p> <p>(2)ニュータウン通りバス路線復活とタクシー・ミニバス実証実験の実現に向けて再度伺います。</p> <p>(3)第三小学校の建替えと第三小学校区エリアに児童館新設について伺います。</p> <p>(4)旧北貝取小学校、郷土資料の収蔵と第三小学校の郷土資料について伺います。</p> <p>(5)旧小泉家の古民家の今後の行方について伺います。</p> <p>(6)指定管理制度の運営のコミュニティセンターの管理とその他について伺います。</p> <p>(7)乞田川の今後の親水化工事と白濁対策と桜の根上がり対策と桜の古木伐採後の対応について伺います。</p>
<p><b>資料要求欄</b> (資料要求がある場合は、以下に記入してください。)</p>

# 一 般 質 問 通 告 書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

2019年2月18日

多摩市議会議員 橋本 由美子

多摩市議会議長 岩永 ひさか 殿

## 質問項目

1. 待機児ゼロ実現への道と幼児教育「無償化」問題
2. 上からの「協働」では何も解決しない  
「コミュニティ・スクール」を考える
3. 都営住宅の建て替えを取り巻く問題について

## 答弁者

市長・教育長等

受 付	平成31年2月18日	No.23
	午前9時02分	



## 項目別質問内容

### 1. 待機児ゼロ実現への道と幼児教育「無償化」問題

2月1日には保育園、中旬には学童クラブの決定通知が保護者のもとに届きました。保育園に入れるかどうかは、その子ども自身の問題というより、保護者はもちろん、ご近所、祖父母、そして勤務先まで巻き込んでの問題へと広がっていきます。今年度の認可保育園の受入れ枠と申し込み状況は、0歳で募集219人に対して222人、1歳児で160人に対して279人、2歳児では65人に対して124人。つまり、1歳児では119人、2歳児でも59人が、認可保育園を希望しながら入れないという状況になっています。2歳児では、育児休業もこれ以上延長できないので、ときには、いったん退職しなくてはならないという状況も生まれます。最終的にどの園に入れるかなど、3月末にならないと確定はしませんが、「待機児ゼロ」には程遠い実態になることは確実ではないでしょうか。本来、4月1日以降も入所を希望する家庭はでてくるのは当然ですから、4月以降にも一定の入所枠があってほしいのですが、低年齢児においては、そのような余裕は全くありません。市としては、当初「多摩市子ども・子育て支援事業計画」の通りにいけば、2016年度には「待機児ゼロ」をと考えていたようですが、その期待はみごとに裏切られています。

日本共産党は、認可保育園こそ保育の場としてふさわしいものであり、認可保育園を基本に据えて、計画的な増園策をとるべきと考え議会においても指摘・提案をおこなってきました。また、昨年11月の申し込み状況を見て、このままでは待機児数は減るところか増えてしまうという状況のなかで、貝取保育園での緊急対応や、小規模保育園の増園など早急に対策をとるよう申し入れをおこなったところです。

代表質問を通して、施政方針を踏まえた総括的な質問をおこなっていますが、一般質問を通して市民への影響やその対策など詳細な点について考えをお聞きします。

- (1) 当初の「多摩市子ども・子育て支援事業計画」では、保育園も学童クラブも待機児がでる状況になり、市は計画の見直しを行い、学童クラブの増設などをおこなってきました。2015年度から2019年度のなかでの、計画の見直し、新たな施設対応などの施策、またなおかつ、住民の期待に答えられなかったことについての市の見解を伺います。
- (2) 計画されている認可保育園の開園は、2021年4月になると聞いています。今後の、施設づくりに関する市の計画を伺います。
- (3) 10月からの「幼児教育の無償化」は、新たに保育園の給食の実費徴収というとんでもない事態を生む方向になろうとしています。国の保育指針にも「保育所における食育は健康な生活の基本としての食を営む力の育成に向け、その基礎を培うことを目標とする」と定められています。「給食」は生活や活動を支える“保育の行為”です。市は、実費徴収をどうとらえているのか、また、もし具体的な徴収が起きるよ

## 項目別質問内容

うなことが起きるとしたら現場での大きな混乱は避けられないと思います。市の考えを伺います。

- (4) 学童クラブにも待機児が生まれています。どのように対応していくのでしょうか。計画を伺います。
- (5) 学童クラブ(放課後児童健全育成事業)と学校内で実施されている放課後子ども教室を同一視するような動きがあります。また、国の動向にもこれに沿った動きがみられます。市としての見解を伺います。
- (6) 学童保育の目的・役割、児童福祉法の理念から考えると、国が「従うべき基準」を廃止し、「参酌すべき基準」へ引き下げることが、学童クラブにとって重要な変更です。多摩市としての考え、市としての対応を伺います。

### 2. 上からの「協働」では何も解決しない 「コミュニティ・スクール」を考える

2015年12月に取りまとめられた中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」をふまえ、「コミュニティ・スクール」を推進する学校運営協議会の設置の努力義務化やその役割の充実などを内容とする、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正がおこなわれ、2017年4月1日に施行されました。

「学校と地域の連携」「地域とともにある学校づくり」を進めることには誰もが否定することではありません。しかし、12月議会のコミュニティ・スクールに関する質問への答弁や、コミュニティ・スクールの学習会などの話を通して感じるのは、「広がる子どもの貧困対策」「学びの困難さ」「子どもの意見表明や自主性」への配慮に欠けるばかりか、「地域ごとに違う多様性」にまで教育委員会や行政が口をはさむ危険性をも感じるところです。

市長の施政方針においても、評価、推進の意思表示がされています。コミュニティ・スクールに対する、市長及び教育長の考えを伺います。

### 3. 都営住宅の建て替えを取り巻く問題について

都営諏訪団地の第1期の移転説明会の日程が決まりました。3月14日に行われ、秋には移転が始まる予定です。今回移転の対象になっている家庭、旧中諏訪小学校校庭に引っ越しが決まっている家庭、そしてその後まだいつになるかの決まらない家庭と大きく3グループに分けられるなか、このことをきっかけに、子どもとの同居、施設への入所など様々な動きがでています。まさしく悲喜こもごもの状況が生まれています。

- (1) 第1期及びその後の転居、新築計画などの工程について伺います。

## 項目別質問内容

- (2) 今回は、市内での転居がまとまったかたちで発生しますが、廃棄物の処理、また本来市役所で行う転居届などへの配慮はおこなわれるのでしょうか。
- (3) 市内都営住宅には、エレベーターなしの所に要介護度の高いかたがお住まいになり、低層階への転居を長年希望されているケースが多い現状です。この際、エレベーター設置の住宅への早期の転居を実現させていくことが必要と考えますが、配慮はあるのでしょうか。
- (4) まだ、計画未決定の地域にもたくさんの居住者がいらっしゃいます。塗装や建付けの不具合について、今後転居があるという理由で、修繕が行われていないケースがあると聞きます。空き家も増えているなかで住環境の保全については配慮が必要だと思います。市として東京都に対しどのような働きかけをしているのでしょうか。

**資料要求欄**（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）

- ① 「多摩市子ども・子育て支援事業計画」における保育園・学童クラブの「サービス確保方策・確保量」の当初計画・見直し後の計画・現状について、1号、2号、3号それぞれについて、量の見込、確保量、差という形で示す資料。
- ② 多摩センターに予定されている認可保育園の開園までのスケジュール。
- ③ 1-(3)について国からの通知等あれば。また、主食のみ、副菜のみを市負担にしたときのそれぞれの財政負試算。
- ④ 学童クラブ、現状における各施設、各学校の学年別待機児状況。
- ⑤ 3-(1)についてもっとも新しい工程表。
- ⑥ 3-(2)について前回のブリリアなど大型転居時の廃棄物処理および転居手続きについての対応実績。

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

平成31年2月18日

多摩市議会議員 安斉 きみ子

多摩市議会議長 岩永 ひさか 殿

## 質問項目

- 1 市民が利用しやすい市役所をめざして
- 2 多摩市ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業・  
子どもショートステイ事業について

## 答弁者

市長・教育長等

受 付	平成31年2月18日	No.24
	午前9時27分	

## 項目別質問内容

1 市民が利用しやすい市役所をめざして
市役所は市民にとって行きやすい場所にあること、まただれもが困った時に相談しやすいこと、手続き等がスムーズに行えることなど、住民にもっとも身近な公共施設です。ところがこの多摩市でも、今年9月からマイナンバーカードを使用し、印鑑登録証明や住民票のコンビニ交付を実施、そこを入り口に行きつく先に市の窓口業務の民間委託化が進められようとしています。市民の利便性を図るとしながらも、マイナンバーカード活用には反対の声もあります。
昨年9月議会では補正予算にマイナンバーカードを使用したコンビニ交付導入に日本共産党と生活者ネット・社民の会は修正案を共同提出して反対しました。残念ながら補正予算は通ってしまいましたが、日本共産党はマイナンバーカードの活用は新たな監視社会をつくるものとして反対しています。
こうした一連の市の取り組みは「窓口業務の見直し方針」に基づく取り組みについて・・・で示されています。もうすでに第1段階の取り組みのライフイベントごとのチェックシートの活用が始まっています。そして今年1月からは第2段階の一体的な取り組みについて市民周知が開始されています。今年9月から行われるコンビニ交付、土日の部分開庁開始、ベルブ永山や多摩センター出張所、桜ヶ丘出張所の一部の業務の見直しが行われます。
チェックシートの活用や本庁の土日の部分開庁は否定するものではありませんが、市民の利便性や選択の自由があつて当然だと思います。
また3月議会ではこれに伴い「手数料条例」の一部改正や「印鑑条例」の一部改正も予定されています。
(1) コンビニ交付について、カード使用の際、紛失や置き忘れなどトラブルも考えられます。9月議会の補正予算での質疑では、コンビニ側に個人情報を守る責務はないとの答弁だったと記憶していますが、守秘義務など極めて公務に基づく要素がある業務をコンビニ任せで良いのでしょうか？
(2) マイナンバーカードを持たない人たち、使いたくない人たちの選択の自由があつて当然ではないでしょうか？コンビニ交付だけを、手数料を半減にするのはマイナンバーカードの利用に誘導するものであり、選択の自由を阻害するものだと思います。見解を伺います。
(3) 出張所の役割は身近な市役所の窓口だと市民は捉えて当然だと思います。出張所業務の見直しは職員の削減にあると思います。見解を伺います。
(4) 窓口業務の民間委託化で問題が生じて一部の業務を市の直営に戻した自治体もあります。こうした他の自治体の失敗をどう生かしますか？見解を伺います。
(5) 日医大病院の旧UR局舎跡地への移転が予測されるなか、病院跡地が生



# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

平成31年2月18日

多摩市議会議員 きりき 優

多摩市議会議長 岩永 ひさか 殿

## 質問項目

1 多摩市の保育・介護・福祉に係る政策について

## 答弁者

市長・教育長等

受付	平成31年2月18日	No.25
	午前11時52分	

## 項目別質問内容

<p>1、多摩市の保育・介護・福祉に係る政策について</p> <p>地方分権によって市町村の役割が増している現代社会において、適切な福祉政策実現のためにはこれからも多摩市における継続的な政治的決定が必要と言えます。地域共生社会を多摩市においても実現させるために以下質問いたします。</p>
<p>① 日本の社会保障は年金、介護、医療という高齢者3経費に少子化対策・子育て支援が新たに加えられ、現在は社会保障4経費として組み立てられています。少子高齢化が顕著な現代社会において社会的弱者に対する支援とともに出生率の改善は将来への政治の責任として欠かせないものです。多摩市の出生率（合計特殊出生率）の推移と評価、今後の課題について伺います。</p>
<p>② 多摩市の児童福祉サービスの現状と課題をどのように分析されているのか伺います。また、子どもの養育および発達に対する第一次責任は親にあるとされていますが、子ども家庭福祉における自助、共助、公助を多摩市ではどのように分析されているのか伺います。</p>
<p>③ 多摩市の児童福祉サービスの現状と課題について伺います。また、今年度10年ぶりに改訂された保育所保育指針について多摩市における評価を伺います。</p>
<p>④ 今年の10月には介護保険の報酬改定が予定されています。要介護者に適切な支援を行うためには介護職員に対する適切な報酬も欠かせません。市ではどのように情報を分析し、対応をお考えでしょうか。また、介護基盤と介護職員の充足についてどのように評価されているのか伺います。</p>
<p>⑤ 障がい者に対する支援について、申請主義を取る日本の社会保障においては特に情報提供に対する支援が欠かせません。市の現状とお考えについて伺います。</p>
<p>⑥ 公の事業においては必ずしも利益を求めべきものではありませんが、一方現代社会の変遷を鑑みるに、市の財産については積極的に有効活用していくべきです。市のお考えを伺います。</p>
<p><b>資料要求欄</b>（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）</p>
<p>① 多摩市の出生率の推移のわかるもの</p>